

V. 特記事項

1. 新型コロナウイルス禍における教育研究活動継続の取り組み

国内において新型コロナウイルスの本格的な蔓延が始まった令和2(2020)年3月、法人本部に「新型コロナウイルス感染症対策本部」が設置され、同年3月12日に学長を本部長とする「新型コロナウイルス感染症対策所属本部」(以後、コロナ対策会議という)を本学に設置した。同本部は、コロナウイルス感染症対策に関する全てを所掌し、方針を決定している。

本学では、同年3月の全学での卒業式を急遽中止としたが、情報学部では、教員の発案により卒業式に代わる卒業セレモニーをオンライン上で執り行い、卒業生の門出を祝った。

年度が変わり、令和2(2020)年4月の入学式や歓迎イベントは全て見送られ、新入生へのノートパソコン配布や必要最低限の手続きのみ対面で行い、それ以外は、全てオンラインでの対処とした。その後、4月10日のコロナ対策会議において、新型コロナウイルス感染症対策における、学生及び教職員の安全を最優先とし、前期開講の全科目でのオンライン授業の導入を決定し、学内外へ発表、4月22日から県内でいち早くオンデマンド配信による遠隔授業を開始した。その際、教員向けの遠隔授業コンテンツ作成に関する研修会は、3日間で計6回実施し、教職員が協働して取り組んだ。

令和2(2020)年度前期には、学生に対して遠隔授業に関するアンケート調査を複数回実施し、学生の様々な意見や要望を聴取し、教育環境の改善に努めた。なお、この調査結果より、学生同士や先生とのコミュニケーションが欠如し孤独感が増していること、さらに毎回の課題作成に追われ肉体的・精神的な負担が増加している点などが報告され、科目担当教員へ配慮を依頼するなど、改善を続けた。

令和2(2020)年度後期は、地域の感染状況を注視しながら、感染防止対策を徹底した上で、後期開講科目の全体の8割を対面授業、受講者数が100人を超えるなど全体の2割程度をオンライン授業で実施した。感染防止対策として、毎朝の検温、マスクの着用、フェイスシールドの無料配布(1回のみ)、大学内の建物入館時にサーモグラフィーでの検温、学内各所に消毒液を配置して手指の消毒、教室の換気の徹底、教室収容人数に対して5割を制限とした教室利用、一人置きでの着席、授業で使用した機器のアルコール消毒(酒精綿の配布)、食堂テーブルにアクリル板の設置、極力昼食を跨がないような時間割調整などを行った。

同年度後期に実施した学生満足度調査結果では、「大学への満足度」は、80.2%が概ね満足し、昨年度の数値(77.4%)を超え、さらに「遠隔授業への満足度」は、70%が概ね満足している結果となった。なお、卒業式は、感染防止対策を施した上で、学部ごとに開催した。

令和3(2021)年度は、入学式を学部単位で入れ替えて開催とし、授業は感染防止対策を徹底した上で、前期開講科目全体の9割を対面授業とし、受講者数が93人を超える科目など、全体の1割程度をオンライン授業として実施している。